



関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	国語Ⅰ、国語Ⅱ、国語Ⅲ
教科書	プリントを配付する。
補助教材等	変体仮名を読むので「字典かな―出典明記 改訂版―」(笠間書院)が必要である。
学習上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業で行うのは、文学研究である。研究はどの学問分野であっても「具体的な根拠をもとにして論を展開する」ことを基本とする。したがって、本授業ではあなたの「感想」は求めない。根拠を伴った「意見」を提出してもらおう。</li> <li>・その意見をクラス全員で検討する。発表者はクラス全員が問題共有できるように、わかりやすく簡潔な説明を心がける。</li> <li>・司会者は、意見交換が活発に行われるように努力する。沈黙を作らないように工夫する。</li> <li>・発表のために、図書館で調査作業を行う。インターネットで検索しても、本授業で必要な情報は得られない。図書を用いて調査をコツコツと丁寧に取り組むこと。</li> <li>・本授業は情報学の授業でもある。書物という器によって情報が伝達されてきた歴史をしっかりと学習してほしい。</li> </ul>	
担当教員からのメッセージ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の主な狙いは、資料の調査をする力・論理的思考力・口頭で説明する力・討議に参加する力といった、今後の社会生活で必要とされる力を実際に経験しながら獲得することである。また、くずし字の解読及び和歌の読解を通して日本文化への理解を深めるとともに、それらに親しもうとする姿勢も育む。</li> <li>・人は、必ず失敗をする。本授業でも失敗をしない人は、いない。だからこそ、どこまで誠実に取り組むかが重要になってくる。できない・わからないということに向き合う誠実さを、大切にしてほしい。</li> <li>・電源が落ちたら何も調べられない人間になってはいけない。人間がやってきた営み(和歌)に対して、人間だからこそできる方法で取り組むこと。</li> </ul>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを熟読し、授業概要、学習到達目標、授業の明細等を理解する。</li> <li>・発表や司会進行の手順、レジユメの作成方法を理解する。</li> <li>・質疑応答では具体的にどのようなことを述べればよいのかを理解する。</li> <li>・聞き取りやすい話し方を習得する。</li> <li>・発表を聞き、重要なポイントについてメモをとる方法を習得する。</li> <li>・コメントペーパーの書き方を理解する。</li> <li>・変体仮名の読み方を学習する。</li> <li>・和歌の基礎知識を学習する。</li> </ul>	復習として、以下に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・変体仮名を読む練習をする。</li> <li>・授業で配付されたプリントを読み直し、確実に理解しておく。</li> </ul>
2	ガイダンス②		
3	発表準備		
4	発表①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の発表を通して、文章や口頭で説明をする力を高めることができる。</li> <li>・発表の手順は以下の通りである。</li> <li>○発表は1名ずつ、各自一首を担当する。</li> <li>○レジユメは和歌の翻字本文と字母、語釈、解釈、鑑賞と問題点を記す。</li> <li>○レジユメによる発表の後に質疑応答を行う。</li> <li>○発表の最後に司会進行役がまとめを述べる。</li> <li>○発表や司会進行に対する感想、意見、アドバイスをコメントペーパーに書き、提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表準備に早めに取り組む。</li> <li>・各発表の良かった点と悪かった点を整理し、自分の発表に活かすようにする。</li> <li>・発表者と司会者は提出されたコメントペーパーを読み、良かった点と悪かった点を整理する。</li> <li>・変体仮名を読む練習をしておく。</li> </ul>
5	発表②		
6	発表③		
7	発表④		
8	発表⑤		
9	発表⑥		
10	発表⑦		
11	発表⑧		
12	発表⑨		
13	発表⑩		
14	発表⑪		
<b>学年末試験</b>			
15	試験返却・解答解説まとめ 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説を聞いて間違った箇所を訂正する。</li> <li>・何をどのように間違えたのかを振り返った上で、正答を理解する。</li> <li>・学習事項のまとめを行う。</li> </ul>	
<b>総 学 習 時 間 数</b>			45 時間
<b>講 義</b>			30 時間
<b>自学自習</b>			15 時間